

白川文字学

ニュース



発行 H30.7
 福井県教育委員会
 生涯学習・文化財課
 No12

今回は、「白川静博士のエピソード」や「つながる漢字」について紹介します。



白川静博士ってどんな人？



エピソード① 生まれた家の半分は、大名通りに面し、あと半分は福井城のお堀の上。白川静博士は、子どものころ、たらいを舟のかわりにして、お堀に浮かべて遊んだそうです。おわんの舟に、箸の権で川を下った一寸法師みたいです。



エピソード②

白川静博士は、研究だけされていたイメージがありますが、世間に対する好奇心も旺盛でした。オリンピッククワイギョアスケートで、日本人で初めて金メダルを取った荒川静香さんの「イナバウアー」を散歩中に真似されていたそうです。



「耳」とつながる漢字



聞 きこえる
 甲骨 こつこつ
 モン もん

耳と一とを組み合わせた形。つま先で立つ人を横から見た形の上に大きな耳の形を書いて、聞くという耳の働きを強調している。古代の人は、耳にはかすかな音で示される神の声を聞く働きがあると考えた。



耳

甲骨 こつこつ



みみ

聴 きく
 甲骨 こつこつ
 チヨウ ちよう

耳と二つの口とを組み合わせた形。神に祝詞を唱えて祈り、神の声、神のお告げを聞くことができることをいう。



聖 せい
 甲骨 こつこつ
 セイ

耳と口とを組み合わせた形。現在「王」と書く部分は、古くは「王」と書き、人がつま先立ちをしている姿を表す。祝詞を唱え、つま先立って神に祈り、神のお告げを聞くことができる人を「聖」といい、聖職者の意味。のちに、「ひじり（知識の最も優れた人）」の意味となった。

白川静『常用字解』『字訓』より